



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会
〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知県保険医会館内
TEL ; (052)832-1349
FAX ; (052)834-3584

歯科医療に関する全国市民アンケート

9割以上が「保険のきく範囲を広げてほしい」

昨年10～12月に全国保険医団体連合会が実施した「歯科医療に関する市民アンケート」は、全国1万129人の市民から回答が得られました。愛知県でも連絡会参加団体、あいち高齢者大会、愛知母親大会などで協力を呼びかけ、881人の協力がありました。

【回答の内訳】

男性37.8%、女性61.2%
年齢は10代～90代まで

【現在歯科医院に通院していますか】

「通院している」37.1%
「通院していない」62.2%
年代別では70代が53.0%と最も高かったが、20代は

22.5%、30代24.9%、40代27.2%と働き盛りの世代で通院比率が低い結果でした。

【歯の治療には保険がきかない治療がありますが、どう思いますか】

「今のままでよい」7.9%に対し、「保険のきく範囲を広げてほしい」との回答は91.6%と圧倒的に高く、歯科医療に対する国民共通の切実な要求になっていると言えます。

【歯科の保険の窓口負担は】

「高い」52.7%、「適当」41.6%、「安い」3.5%。
「高い」が5割程度にとどまっていますが、これは高額となる自費診療に比べて、

保険の窓口負担は「適当」という意識で回答した方も多かったのではないかと推察されます。

【治療をせずそのまま放置しているところがありますか】

36.3%の人が「ある」と回答しています。特に20代～50代では40%を超えており、治療の「放置」を改善することは大きな課題であると考えられます。

【治療をしない理由】

「時間がない」52.0%
「費用が心配」34.5%
「治療が苦手」32.1%
その他の理由では、「信頼できる歯科医院がない」「通院・予約が面倒」「何度も通院しないとイケない」「痛みがない」「困っていない」などの理由もありました。

【歯科の治療に関する自由意見欄】

「治療費、一部負担が高い」、「費用の心配がある」、「保険の治療範囲を広げてほしい」、「保険で良い治療を受けたい」という歯科保険制度に関する内容が多数。その他「通院期間が長い。もう少し早く終わる治療を受けたい」「インプラント治療はかなり高額。もっと安くできるとありがたい」「十分な説明や話し合いがないまま治療が進んでいってしまう。納得できる説明を」「信頼・安心できる歯科医院がほしい」など、医療機関に対する要望も寄せられています。歯科医療を良くする改善の努力が求められています。

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会

第5回定期総会にご参加ください

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、患者・住民に歯の健康や噛むことの重要性を訴え、歯科医療改善の運動に取り組んでいます。

第5回総会は、歯科医療の現状を改善し国民歯科医療を守り発展させるため、愛知連絡会としての取り組みと今後の活動について確認するとともに、咀嚼と脳の関係について下記のように記念講演を行います。ぜひご参加ください。

2011年5月29日(日)

午前10時～12時

愛知県保険医協会伏見会議室

名古屋市中区錦一丁目13-26

名古屋伏見スクエアビル9F

10:00～10:30

10:30～12:00

総会議事

記念講演



記念講演

「噛むチカラで脳を守る」 ～咀嚼は脳のジョギングだ！

小野塚 實氏 神奈川歯科大学 生体機能学講座生理学分野 教授

近年、ヘルス・プロモーションにおける咀嚼の役割が科学的に分析されるようになり、咀嚼器官が脳の認知機能を保つための重要なツールであることが次第にわかってきました。

今回、私たちがこれまでに行ってきた研究の成果を中心に、咀嚼器官を生かした記憶の維持と回復、特に認知症の予防医学的ツールの可能性を平易に解説します。



「保険でより良い歯科医療」の実現を求める 自治体意見書採択の取り組み

「保険でより良い歯科医療」の実現を求める意見書採択の取り組み

愛知連絡会では、「保険でより良い歯科医療」の実現を求めて運動を続けています。

今までに県内で意見書を採択した自治体数は15市町村であるが、この3月議会では、半田市・津島市・碧南市・高浜市・あま市・南知多町の議会に対して陳情書を提出しました。

全国の意見書採択の自治体数は、1月21日現在で11道県議会、517市町村議会(29.9%)となった。宮城県や島根県、長野県では採択率が90%を越えるなど、15県で過半数の採択数となっています。

NHK「ためしてガッテン」で「噛むこと」と「脳」の関係を放送



2月9日に放送されたNHK「ためしてガッテン」で「噛むこと」と「脳」の深い関係について放送されました。

放送では、歩けなかった人が、入れ歯を入れて噛めるようになるまで庭仕事をするほど元気になった、「寝たきりだった人が噛めるようになるまで、散歩ができるほど元気になった」などの映像が流されました。

歯と脳のふか〜い関係

番組の中では、「噛むこと」により、歯の根っこにある「歯根膜」が感じた刺激が、脳神経の中で最も太い三叉神経を伝わり脳の中核に送られ、脳の中の「運動」や「感覚」をつかさどる部分や、「記憶」や「思考」



や「思考」、「意欲」に関係する部分を活性化させることが紹介されました。

歯は姿勢・バランスにも影響

入れ歯を「入れたとき」と「外したとき」で違いがあるかどうかの実験では、総入れ歯の女性が入れ歯を外すと、力が入りにくくなるだけでなく、身体のバランスを崩しやすくなることがわかりました。握力の測定では明らかに「入れたとき」の方が力が出ました。また、卓球のラケットにピンポン球をのせて歩いたとこ



ろ、入れ歯を「外したとき」には、フラフラしてピンポン球を落としてしまいました。

私たちが姿勢を保つためには、上あごに対する下あごの位置が重要でした。入れ歯を入れていないと「噛み合わせ」ができず下あごの位置が定まらないため身体のバランスが保てないのです。身体のバランスをとるのに、歯は重要な役割を果たしていたんですね。

安心して入れ歯を入れたり、歯の治療を受けるためにも、窓口での治療費の負担を減らしたり、保険で受けられる治療の範囲を広げたりすることが大切だと考えさせられる番組でした。

愛知県保険医協会・今年の「ヨイハデー」

「歯の何でも電話相談」は4月17日に実施



昨年の電話相談の様子

愛知県保険医協会では毎年4月18日を「よい歯健康デー（ヨイハデー）」として、電話相談などの取り組みを行っています。

今年は前日の4月17日午前10時から午後3時まで電話相談を行います。お口の悩みや歯科治療に

関する質問をお寄せください。

また、保険医協会ではヨイハデーにさまざまな企画を募集しています。

今年は「歯育川柳」を募集しています。歯やお口の大切さをより身近に感じられるような川柳や俳句を募集しています。詳しくは、愛知県保険医協会までお電話（052-832-1349）で問い合わせるか、ホームページ（<http://aichi-hkn.jp/>）でご確認ください。



厚生省研究班調査 歯を失うと認知症のリスク1.9倍に

日本福祉大学の近藤克則教授、神奈川歯科大学社会歯科学講座の山本龍生准教授などが参加した厚生省研究班の調査によるデータ分析が、日本疫学会学術総会（1月21日）で発表され、歯がほとんどなく義歯を使用していない人、あまり噛めない人、かかりつけ歯科医院のない人は、認知症発症のリスクが高いことが示されました。

20本以上ある人に比べ、歯がほとんどなく入れ歯も使っていない人の認知症発症のリスクは1.9倍であることが明らかになりました。

また、何でも噛める人に比べ、あまり噛めない人の認知症発症リスクは1.5倍、かかりつけ歯科医院がある人に対するない人の認知症発症のリスクは1.4倍と発表されています。

この調査は、愛知県内の65歳以上の高齢者4,425人を対象に要介護認定のデータなどを4年間追跡して認知症が発症するまでの日数と歯数、咀嚼能力などの関係を検討したものです。分析結果によれば、残存歯が

研究班では、歯を失う原因となる歯周病などの炎症が直接脳に影響を及ぼすこと、噛めなくなることによる咀嚼機能の低下が脳の認知機能の低下を招いていることなどが示唆されるとしています。